

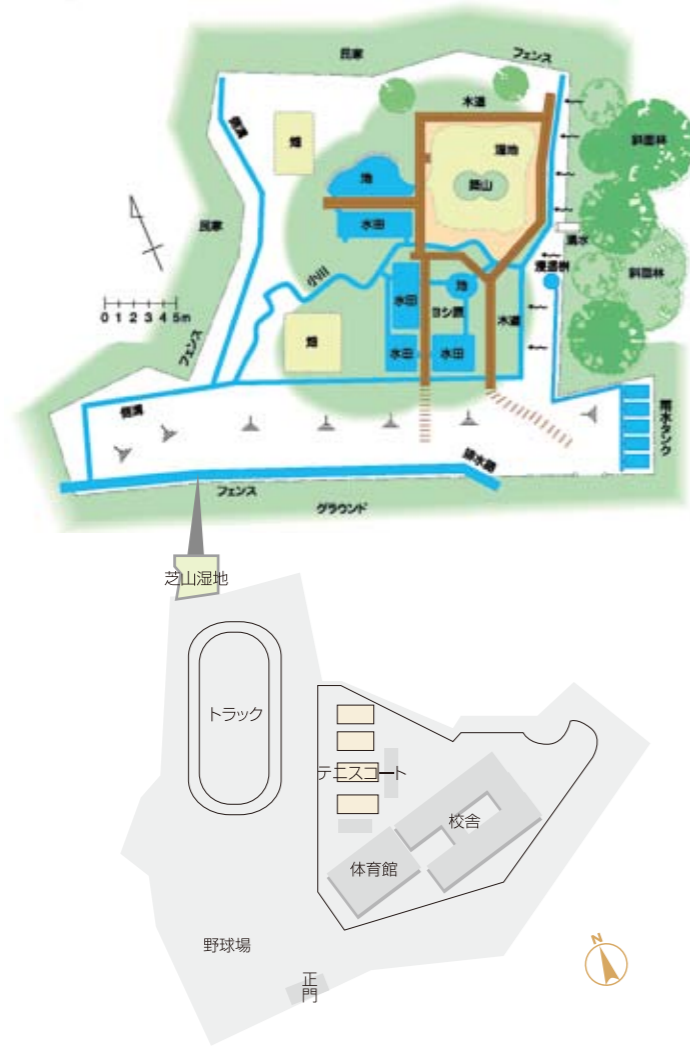
SCHOOL DATA
 〒274-0816 船橋市芝山7-39-1
 TEL.047-463-5331 FAX.047-467-3216
 ■生徒数/835人 ■教職員数/59人 ■周辺環境/住宅地 (平成20年5月1日現在)



まちづくり協議会の皆さんと斜面林の整備

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内(北端)
- 面積/600㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/1999年より数年をかけて徐々に整備
- 直近の改修年/2006年(水田を二つ増やした)
- 主な管理者/生物担当職員、科学研究部生物班



<コンセプト>

本校は創立32年目の県立高校である。それ以前は、本校も含めた周辺地域は谷津田、湧水、雑木林、畑地が広がるいわゆる里山であった。創立以来約20年の間、本校敷地の北端にはかつて水田であった場所が放置されヨシ原となっていて、一部には産廃が不法投棄されていた。

このヨシ原湿地を、地域の生物多様性に貢献できる場とし、なおかつ教育活動に活用するために、敷地に接する船橋市の保存樹林下から湧き出る湧水を水源として、小川、池、水田などを整備し、観察用に木道を設置した。したがって本校のビオトープは、かつての「里山」的環境を復元した、いわゆる「復元型ビオトープ」である。

生息している生物

キンラン、ヒメアカネ、ニホンアカガエル、メダカ、ヘイケボタル、サワガニ等、現在までに千葉県レッドデータブック掲載種が25種確認されている。今までに記録されている植物は斜面林も含め約200種、昆虫類は約450種、哺乳類3種、爬虫類5種、両生類4種、魚類3種である。

今後生息させたい生物

芝山湿地に接する斜面林にエゴノキがあるが、今のところエゴノツルクピオシブミは見られないので、近隣地から導入したい。シュレーゲルアオガエルも移入させれば確実に定着するものと思っている。ただし、鳴き声が大きいため周辺住民の理解が得られなければ移入は難しいと考えている。イトトンボ類はアジアイトトンボ、オオアイトトンボしか確認していないので数種のイトトンボを持ち込み定着させたい。

ビオトープの活用方法

1.生物の授業で活用している。

- ニホンアカガエルの発生を観察
- プラナリアの再生実験
- プランクトン・原生生物の観察
- 赤とんぼ調査
- 稲作体験

2.部活動のフィールドとして活用している。

- 科学研究部生物班が湿地の維持管理を行いながら、生物相調査、花暦作成、トンボの行動研究を行っている。
- アースサイエンス部が湧水量調査、微気候調査を行っている。

3.地域住民に開放している。

- 希望があれば適宜現地を案内し、教育活動に利用しながら、地域の生物多様性に貢献している貴重な場所であることをアピールしている。
- 7月後半に「ホタル鑑賞の夕べ」というイベントを開催し、地域の皆さんに鑑賞していただいている。
- 地域の自治会からなる「芝山十町会まちづくり協議会」が湿地や斜面林整備に協力してくれている。

ビオトープの効果

■生徒への効果

湿地環境と湿地の生物を活用した生物の授業は、生徒の興味関心を高め、「環境」について学ぶために進学する生徒も増えている。全国学校ビオトープコンクール2007での金賞受賞、知事の訪問、コココーラ環境教育賞の受賞、数回にわたる新聞報道等により、全校生徒も本校に「芝山湿地」があることに誇りを持ち始めている。

■教職員への効果

生徒たちが落ち着いていて穏やかであるのは、本校にビオトープがあることも大きく影響しているという教職員もいて、ビオトープの維持・発展に大変理解がある。

■保護者、地域住民への効果

生徒と同様に、湿地に対する外部の高い評価や新聞報道により、学校内にこのような環境が維持されていることをとても重要であると考えてくれている。芝山十町会まちづくり協議会の協力はその具体的な現れである。

保護者、地域との連携

保護者

現時点では、「ホタル鑑賞の夕べ」「文化祭」等で現地を見学していただくこと、「自然だより『芝山湿地』」という名の生物教室新聞を通じて活動を知っていただく程度で、具体的な保護者との連携はない。

自治会、町会、地域住民等

すでに記しているように、本校周辺の自治会からなる「芝山十町会まちづくり協議会」と連携し、斜面林の再生事業、湿地の維持活動に協力していただいている。

その他

千葉県高等学校教育研究会理科部会生物分科会の中に、「船橋地区研修会」「ビオトープ研究班」というグループがあり、それぞれ本校のビオトープについて関心を持っており、今までに数回



オニヤンマのヤゴ調査

の研修会を本校を会場に実施している。

また、今までに、東京学芸大学、千葉大学園芸学部、車軸藻研究グループ等の大学や研究者グループ、緑のみずがき隊、クスノキ会などの市民会、船橋市立芝山東小学校、習志野市立第一中学校等の児童・生徒が見学に訪れている。

整備・活用・管理等の課題

- ①木道は3年ほどで朽ちて取り替える必要が生じるが、そのための予算が校内予算にはない。毎年一定の「整備費」の配当が求められる。
- ②地域住民との連携や地域住民の利用(ホタル鑑賞の夕べに参加いただくことなど)においては、あくまでも学校内の施設であることから、いつでも自由に出入りできるわけではない。連携が深まれば深まるほど、担当職員の負担(時間的、労力的)が増す。
- ③担当職員の異動により、ビオトープの存続、生物多様性の維持、教育活動における活用が継続されるかどうか不安である。したがって、学校ビオトープの維持活用については、人面での配慮が欠かせない。

今後の展望

- ①「ホタル鑑賞の夕べ」の実施に際しては、理科職員の協力を得て、担当職員の負担を軽減したい。
- ②湿地整備については、年に数度保護者の協力が得られるよう検討したい。
- ③地域の小学校に呼びかけ、総合学習等での芝山湿地の利用を勧めると同時に、小学校にもビオトープをつくることを働きかけ、ビオトープ・ネットワークの形成に尽力したい(すでに船橋市立飯山満小学校とは緩やかなビオトープ・ネットワークがつけられつつある)。



ホタル観賞の夕べ